

生徒代表挨拶

日差しが日一日と暖かさを増し、桜の蕾みも色づき始めた、今日のこの佳き日に、私たち一五八名は、それぞれの思いを胸に、卒業式を迎えることができました。しかし、現在、世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るい、大勢の感染者が出ているため、ずっと楽しみにしていた、私たちの卒業式が来賓無し、保護者無し、在校生無し、入退場無し、校歌はBGMのみと、思い描いていたものとは遠くかけ離れた形となってしまいました。正直、悔しい気持ちでいっぱいです。医療がどんなに進歩しても、人の力ではどうにもならないことがあることを改めて思い知らされます。感染した人や家族への誹謗中傷、SNSでの書き込みも多いと聞きます。医療の進歩を願う前に、私たち一人ひとりの、心の在り方を見直すべきだと私は思います。無い無い尽くしの卒業式ではありませんが、学校に行けることの有り難さや、友達に会えることは当たり前でないことに気付かされました。絶対に忘れない卒業式になるでしょう。

三年前の四月、まだ見たことのない世界に、胸をときめかせながら門をくぐったあの日から、私たちの高校生活は始まりました。今、それぞれの心には、三年間の語り尽くせないほどの、たくさんの出来事がよみがえってきています。この鹿屋農業高校で私たちは、互いに心を分かち合うことができる友や、いつも温かく見守ってくださる先生方と出会いました。そして、日々を共に過ごし、多くの思い出を作って

きました。

この学校で過ごしたいくつもの季節、様々な行事も彩られていました。私は、大きな決断で生徒会長を務めさせていただきました。失敗したこともありましたが、学校の生徒代表として、その名に恥じぬよう精一杯努力してきました。行事に携わる中で、常に考えていたのは「生徒一人ひとりの最高の思い出に成って欲しい」ということでした。そう願うことは簡単でも、実現させるには、数え切れないほどの努力や忍耐が必要でした。全身全霊で行事に取り組み、何度も心が折れそうになりました。友や先生方に支えられ、一歩ずつ前に進んでいきました。仲間との絆、そして、絶対に諦めないという強い思いがあったからこそ、数々の行事を成功させることができたのだと思います。

特に、私は体育祭が印象深く残っています。二年次の体育祭では、毎日夏休み学校に行き、暑い日差しの中、汗水流しながら必死に覚えた演舞。その成果をたくさんの方々に見ていただきたい、その一心で必死に練習しました。しかし、その願いとは裏腹に、土砂降りの雨が降り、本番で演舞を披露することができませんでした。更に、高校生活最後の体育祭では、台風の影響で、当日のパネル展示ができませんでした。開催さえ危ぶまれた体育祭でしたが、部活動生の朝早くからのグラウンド整備、先生方のご協力でみんなの思いは届き、全てのプログラムを実施することができました。土砂降りの中、必死になって走る姿や泥まみれになりながらの綱引きは、農魂を感じることでできた日でした。二度も中途半端で終わってしまった体育祭でしたが、そ

れすらも私の心に際立って思い出深いものとなりました。

毎日の高校生活で心の底から笑ったり、喧嘩をしたり、涙を流しながらも、互いに助け合って困難を乗り越えてきた、この三年間の経験は、大切な記憶となって色鮮やかに私たちの心を潤してくれます。そんな思い出を語れば語るほど、今日無事に卒業を迎えるまで、私たちを助けてくださった、多くの方々顔が次々と浮かんできます。

先生方は優しく、時に厳しく、いろいろなことを教えてくださいました。その全てを受け入れ、身に付けることはできなかつたかもしれませぬ。しかし、私たちに向けてくださった熱い思いがなければ、私たちの学校生活は間違ひなく、今とは異なっていたと思います。生徒のことを一番に考え、時には友達のように、時には親のように接してくださった、鹿屋農業高校の先生方が私たちは大好きです。今日まで導いてくださり、本当にありがとうございます。先生方から学んだことを胸に刻み、更なる飛躍を誓います。

十八年間私たちを支えてくださった保護者の皆様。どんな時も、私たちを気にかけてくれた家族のおかげで、毎日元気に学校生活を送れました。何度もぶつかり合いました。が、どんな時も私たちの見方となり、たくさんの愛でここまですることができました。本日は急遽出席できなくなりましたが、これからも感謝と尊敬の気持ち忘れず自立していきますので、もう少しだけ、そばで見守っていてください。

残念ながら、本日は出席していない在校生の皆さんが、これからの鹿屋農業高校を、今以上に盛り上げてくれると信じています。

私たちは、平成から令和へと変わる時代に鹿屋農業高校の生徒として存在しました。令和となって、初めての卒業生となります。これからどんな時代になるのか。私たちはどう生きるのか。混沌とした中で、自分が自分らしくあるために、一体何ができるのか。自身の在り方を考え行動していくことが大切だと考えます。令和という言葉には、「希望に満ちあふれた新しい時代を切り開いていく」「若い世代が活躍できる時代であって欲しい」という願いが込められています。鹿屋農業高校も、来年度から学科再編が行われ、新しい景色が見られそうです。改元と共に新しい鹿屋農業高校を楽しみにしています。私たちが進んでいく未来は、今まで以上にたくさん情報が行き交うでしょう。その中で、問題点を見極め、適切な判断ができる力を身に付けておきたいものです。

名残は尽きませんが、いよいよお別れの時が近づいて参りました。私たちはこれから、自分でつかんだ新たな道を、自分の足で歩き始めます。途中で歩みを止めなくなる時もあるかもしれませんが、鹿屋農業高校の卒業生として、誇りを持ち、ひるむことなく、堂々と歩いて行くことを、ここに約束します。鹿屋農業高校の、ますますのご発展とご活躍を、心より祈念して、生徒代表挨拶いたします。

令和二年三月二日

卒業生代表 久保 幸愛